



東京八王子プロバスクラ

創立 1995 年 10 月 18 日

2020～2021 年度 テーマ 「コロナから身を守る」「温故知新：ふるきをたずねて新しきを知る」

プロバスだより

第307号

2021 年 6 月 10 日発行

編集・発行 情報委員会

第 307 回例会 中止

5 月 13 日に予定しておりました臨時総会および 5 月例会の開催については、5 月 6 日開催の理事会において種々検討の結果、緊急事態宣言が発令されれば中止せざるを得ないとの結論になりました。

従いまして、臨時総会の議案については、書類による表決を行ないました。その結果は幹事より報告させていただきます。

紙面構成については、会長挨拶、幹事報告に限ることとし、会員の寄稿文を掲載することにしました。

1. 会長挨拶

田中会長



コロナ禍が未だ治まりの様子を見せず、折しも梅雨入りのせいもあって鬱陶しい気分の続く毎日ですが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。残念ながら 5 月度も例会を開くことが出来ず、皆様と直接お話しできない状況が続いています。何も出来ないでいるうちに、今期も終りに近づいてしまいました。幸い次期の役員体制が固まり、大部分の理事の皆様が引き続き担当されますので、コロナが治まって、又活発な活動が再開されることを心から期待しています。6 月 10 日の今期最後の例会が、無事楽しく開かれていることを心から願うばかりです。

我が家ばかりではないと思いますが、今年は庭の薔薇が殊の外綺麗に咲いています。植物にはコロナは関係ないようです。このご挨拶が皆様の目に触れる頃にはきっと大部分の会員の皆様がワクチン接種を終えられて、少し安心しておられる頃かと期待します。「明けない夜はない」来期の我が八王子プロバスクラブの活発な活動を心待ちにしています。八王

子での開催が決定している全国大会「東京八王子 2022」への準備委員会がスタートしています。心を合わせて前進しましょう。

2. パースデーカードの贈呈

例会中止のため郵送としました。

5 月誕生の方は次の方々です。



永井昌平会員



橋本鋼二会員



有泉裕子会員

3. 幹事報告

持田幹事

幹事からの報告は次の通りです。

1) 5 月 6 日の理事会にて、5 月 13 日の例会と臨時総会開催の可否を諮った。

大半の理事の意見は、「宣言が延長された場合」中止すべきであった。

翌日 5 月 7 日に政府の正式発令があるので、その結果を待ち決定することになった。その準備として、総会議案の配信を幹事・例会委員会にて行うこととした。

2) 臨時総会第 1 号議案を審議した。

2021～2022 年度役員人事（案）について、河合副会長（次期会長）より説明があり、協議・審議の上、議案は原案通り理事会承認となった。

次年度理事は会長・副会長・幹事・副幹事の 4 役を除き、現在の理事全員の再任となる。よって、本議案を臨時総会の第 1 号議案として、書面議決の総会に諮る準備を進めることとなった。

これにより、5月19日までに全会員の表決を依頼するための諸連絡を幹事・例会委員会にて行う。

3) 年度末であるので、各委員長、各同好会代表に事業報告書の作成を依頼した。締切りは5月25日までとした。

4) 例会が開催されないことが多く、異常事態が続いているので、会員相互の意思疎通が行われにくい。そのため、田中会長の提案である会員相互の「声掛け運動」を前向きに進め、多くの会員同志との絆を深めるようにしていくことが肝要である。

5) 臨時総会の議題として書面議決された2021～2022年度の役員人事は次の通り。

東京八王子プロバスクラブ役員人事

理事	26	下山 邦夫	会員
理事	88	池田ときえ	会員
理事	104	有泉 裕子	会員
理事	114	飯田富美子	会員
理事	118	馬場 征彦	会員
理事	124	河合 和郎	会員
理事	127	内山 雅之	会員
理事	131	山口 三郎	会員
理事	139	一瀬 明	会員
理事	141	齊藤万里子	会員
理事	152	寺山 政秀	会員
会計監査	128	岡部 洽	会員
会計監査	134	鈴木はるみ	会員

寄稿

昨今のペット事情

私は SNS など扱いませんので、全く知らなかったことですが、15年も前の2006年の夏に、この SNS のコミュニティーでは、直木賞作家の板東眞佐子に対する容赦ない驚倒の嵐が吹き荒れていたそうある。

いわく「この人は人間のエゴのかたまりです。そのエゴを小学生の作文にも劣る文章、幼稚園児にも劣る理屈で正当化しているだけです。こんな人が偉そうに新聞のコラムなんか載せていることが信じら

土井 俊玄



れない。こんなに胸クソの悪くなる文章を書く作家は初めてみました。正直な表現をするなら坂東眞砂子を殺された子猫と同じ目にあわせてやりたい気分です。崖から落されて、自分の命が消える瞬間に命の尊さを実感して下さい。切りがないのでこの辺で止めておきますが、こんな調子の感情的な悪態が留まることなくネット上に書込まれることになったのは、当時タヒチ島に住んでいた坂東眞砂子が自分の飼い猫の産んだ子猫をこともあろうに自らの手で崖下に投げ落して殺していると新聞のコラムに書いたからであった。そのことに憤激した世のペット好きや動物愛護団体のメンバーが彼女の発言や行動を批判するだけでなく、そのコラムを掲載した日本経済新聞社にも猛烈な抗議を行ない、まさに騒然とした雰囲気になったのである。当時の小池百合子環境大臣がこの出来事について「動物愛護の面で残念」と朝日新聞紙上にコメントし、各界の論客が賛否こもごも自説を述べ立てた。

この坂東眞砂子のコラムに載せた真意はどこにあったのであろうか。彼女の言いたかったことは、ペットのメス猫の「生：いのち」は、発情したときに交尾をして子どもを産むことのはずだ。それを人間の都合で奪い取っていいとは言えない。飼い猫に避妊手術をするのは、そのような猫の「生：いのち」の本質を思いやることなく飼い主の都合を優先させることで、何よりも“殺し”という嫌なことに手を染めないで済む方法なのだと断言していると推測される。しかし、そのメス猫の「生：いのち」から考えれば、産んだ子猫を育てることも含まれているのに、坂東眞佐子は子猫を殺してしまうことに矛盾を感じないのだろうか。

その答はノンフィクションライターの小林輝幸の著作『ドリームボックス — 殺されてゆくペットたち』の中にあるように思われる。その著作の中で明らかにされていることは、今日の日本では無責任な飼い主に捨てられ、保健所などで殺処分される犬・猫が年間40万匹にもなるという見逃すことの出来ない現実があることである。

「ドリームボックス」とは正式名は「炭酸ガスドリーム装置」で動物愛護センターの中にある「ガス室(箱)?」のことらしい。動物愛護の名のもとに、センターの職員は世間からは冷たい目で見られ、処

分対象の動物からは恐怖のまなざしを日々向けられている職員達の苦悩が手にとるようになるという。

正式の業務とは言え、恐怖のために脱糞して必死に抵抗する犬・猫を強引にボックス内に追い立て、ガスバブルを開くと直ぐに悲鳴をあげ白目をむき、口から泡を吹き出して倒れていく光景を見なければならぬ職員からすると、“アウシュビッツ”という呪わしい言葉の響きは決して他人事ではないという。こういう人に対して職員の言葉に出来ない本音は「自分で殺して自分の庭に埋めろよ！」というものなのだ。と小林輝幸は著書の中で述べている。

ここでやっと坂東眞砂子の子猫殺しのことが理解できるように思う。そして坂東眞砂子に対して安易に批判してよいものかという疑問も生まれてくるのである。

このような話を聞いて昨今の日本人（もちろん私も含めて）の動物や自然に向き合う時のバランスとか対処の仕方に何か変だなあという思いが消えないのである。犬・猫だけではないが、いろいろな動物に対し本当に心から愛し癒やされ、まさに家族同様に接している人の「SNS」での坂東眞砂子に対する過激な常軌を逸した罵詈雑言は聞くに堪えないが、動物愛護センターの殺処分に対しては騒がないというのもおかしい。もっとも最近では殺処分を極力避け新しい飼い主を探すようにして、ある程度成果を上げているということも聞き、少しばかりほっとしているところである。

それにしてもこの冬もあったことですが、鶏の感染症が発生すれば直ちに何十万羽の鶏の殺処分とか、豚の感染症が発生したので何万頭の殺処分ということを知ると、やっぱり心の中にももやもやとしたものが生まれてくる昨今である。

わが家に残る石器、土器

物置を整理していたら縄文土器の破片やいろいろな石器がバケツに一杯ほど出てきた。私が中学生の頃、父と八王子の北西部にあたる檜原（檜原町）、西中野（中野町）辺りの台地で拾い集めた物で、引越に際しても捨てるに捨てられず、物置の

橋本 鋼二



隅に何十年か眠っていた。その中には幾つかの打製石器もあった。

この石器を友だちに見せ旧石器時代のものと言ったら、彼は教科書を根拠に「日本には旧石器時代は無かった」などと反論、納得してくれなかったことを思い出した。1940年代後半、戦後間もないころ、アマチュアの歴史家相沢忠洋が群馬県の関東ローム層から打製石器を発見、日本列島での旧石器時代の存在が論議され始めた頃の話である。

写真1の左二点は旧石器時代の石器、右は新石器時代の磨製石器で、かつて私のお宝だったもの。写真2は縄文土器の破片である。

土器や石器を拾った辺りの畑地は関東ローム層の台地にあり、水は近くの小川から得られ洪水の心配もなく、縄文人にとっては住みやすいところだったろう。梶野男著『高校生の発掘 一川口川下流遺跡群 25年間の調査一』という1995年発行のブックレットを見ると、この辺りには縄文時代の遺跡がたくさんあり、1961年から都立八王子工業高校教諭として考古学部の生徒指導にあたり、彼らが発掘した出土品300点余は八王子郷土資料館に保存されているそうだ。

石器・土器を探した台地の畑は住宅地となつてしまい、今は夢を追う術もない。

写真 1



写真 2



ドングリ(団栗)あれこれ

ドングリころころ……と童謡にも歌われているドングリは、コナラやマテバシイなど、ブナ科の樹木の果実です。お恥ずかしい話ですが、ドングリといえばコナラの果実と思い込んでおりました。

ドングリという名称の樹木がないということは誰でも知っていることです。広辞苑で調べると、「橡栗(トチグリ)の転か」とあり、「カシ・クヌギ・ナラなどの果実の俗称。椀状の殻斗があり、果実の下半を包む」とあります。

ドングリのなる木は、ブナ科の植物。ブナ科はブナ属、コナラ属、クリ属、シイ属、マテバシイ属とあります。コナラ属にはウバメガシ、クヌギ、アベマキ、カシワ、ミズナラ、コナラ、イチイガシ、アカガシ、アラカシ、シラカシなどが、シイ属にはスダジイ、ツブラジイなど、マテバシイ属にはマテバシイ、シリブカガシがあります。こんなに数多くあるとは思いませんでした。

ドングリはタンニンを多く含み、熊など野生動物の餌にはなるが、人間にはそのままでは食べられず、アク抜きなどをして初めて食用になるという厄介者です。縄文人も土器を使ってアク抜きしていたのでしょうか。

食べられる種類もあることは知りませんでした。クリは生でも食べられますが、その他にイチイガシ、マテバシイ、シリブカガシ、スダジイがあり、ことにスダジイはおいしいといわれています。

果実の形は下図の通りです。



(図は「日本の野生植物 木本 平凡社刊」より転写)

(M. U)

俳句同好会便り

私の一句〈五月の句会から〉

河合 和郎

コロナの蔓延による混乱が一向に収まらない。頼りのワクチン接種も一向に進まない。月例会も開けない。これを受けて句会は紙上句会となった。

コロナ禍も雛人形は和やかに 東山 榮

作品にもコロナの影響は大きい。雛人形の穏やかな佇まいに救われる思いを一句に詠んだ。

菖蒲湯の張り紙ありて湯屋開く 矢島 一雄

季節感があって爽やか。銭湯に「菖蒲湯」の張り紙が。俳句もできたし一風呂浴びて行こうか。

古伊万里のひびを愛でつつ新茶汲む 池田ときえ

罎が入るほど馴染んだ古伊万里の茶碗と新茶の取り合わせがいい。新茶の香りが伝わってくる。

いかがです日傘が覗く釣り日和 田中 信昭

日傘美人に声を掛けられる太公望は幸せそのもの。まだ一匹も……では洒落にならないが。

牡丹苑眼で聴く色のシンフォニー 下山 邦夫

色を眼で聴くとした表現が面白い。色とりどりの牡丹の花が壮大な色のシンフォニーを奏でる。

室生寺や石楠花愛でし友は亡く 飯田富美子

その昔、友人と訪れた女人高野の室生寺。共に楽しんだ友は既に遠い人となった。追憶の一句。

客車一両代田の影と並走す 馬場 征彦

ローカル線が沿線の田圃に影を映して走ってゆく。「車両とその影の並走」がユニークな発想。

水を撒くジョウロの先に小さき虹 野口 浩平

水を撒く如雨露の先に小さな虹が立つ。日常によくある光景。細かい観察が作品につながる。

草笛や遠き昭和の友の顔 河合 和郎

昭和の子供には自然そのものが遊びの舞台だった。草笛も今や俳句の季語として残るのみか。

編集後記

今月も例会は中止となりました。この先開催できるかどうか不安があります。

今月号は会長挨拶・幹事報告と寄稿文で構成しました。

内山雅之

